



文責 本宮小学校長 佐久間仁

薬 物乱用防止教室



小児科医の佐久間先生を講師にお迎えして、タバコやドラッグの害について学びました。専門的な用語もありましたが、易しい言葉に置き換えながら分かりやすく説明していただきました。タバコの煙を吸う前と吸った後の血管の様子などのリアルな映像に、子どもたちは夢中で見入っていました。「自分の健康（安全）は自分で守る」ことを改めて確認することができた、有意義な時間でした。

〈子どもたちの感想〉

○喫煙すると、体の中にニコチンや一酸化炭素が増え、ガンになるリスクが高くなったり、血管の収縮が発生したりすることを知った。○タバコの煙の中には有害物質が二百種類あることがわかった。他にもタバコとドラッグのちがいが、

ドラッグの種類と名前を知った。○タバコやドラッグは一度使ったらやめられなくなってしまう、それが何年も続くことで、体に影響が出るのがこわいと思った。○タバコやドラッグに依存してしまつと、足の指を切断したり、ガンになったりする場合があることを知り、恐ろしいと思った。

○受動喫煙をしないように、吸っている人の近くに行かないようにし、自分の体を守りたいと思った。○誰かにタバコやドラッグをすすめられても「いやだ」「嫌い」など、しっかりと伝える勇気をもち、絶対しないようにしたいです。

○周りにタバコを吸っている人がいたら、注意するのではなく、治す薬があることを教えてあげたい。



学 校評価アンケートIII

◎メディアの影響について

「メディアが駄目駄目というなら、もっと詳しい理由や統計を示してほしい。やり過ぎはよくないと思うが、すべてに対して悪影響ではないと思う。」

◇メディアの現状については、先日、県の小学校長会のネット・SNS調査結果でもお伝えしたように、ここ数年、特にコロナ禍以降は、メディア使用の長時間化が顕著になっています。本校でも、平日に三時間以上使用している児童が十三・八%おり、休日になると、それが三十・三%と倍増します。メディアの長時間視聴に伴う心身への影響が懸念されます。

小児科医の佐久間先生によると、「読書をしているときの脳は活発に働いているのに対して、メディアを視聴しているときの脳はほとんど働いていない。メディアは、タバコやドラッグと同様、依存性があり、「ゲーム障害」は、WHOにより認定された新たな依存症だ。子どもにメディアとの付き合い方を教える上で、まずは大人が手本を示すことが大事だと思う。」



ご承知のように、学校では、さわやか調べにおいて、メディアの約束を親子で話し合っていたいでいます。ただ、先ほどのネット・SNS調査において、「ネット利用のルールを守っている」児童は、県が六十二・三%に対して、本校は五十七・八%と五ポイントほど下回る結果となっています。

二学期を振り返り、メディアの約束が守れたかを親子で話し合い、三学期に向けて約束の見直しをしていただくようお願いいたします。

※十二月十一日(水)福島民報掲載の記事(裏面)を参照ください。

◎読書活動の推進について

「読書に力を入れてほしい。メディアの休みの日を読書にするなど、さわやか調べの項目に入れてほしい。」



◇学校では、毎週月曜と金曜の朝、読書タイムを行っています。図書室の本を、昼休みだけでなく、業間にも貸し出して、多くの利用を呼びかけています。読書週間を設けて多くの本に触れる機会も設けています。そのほか、しらすわ夢図書館やボランティアと連携し、モトム号(移動図書)や読み聞かせなどを行っています。ご家庭でも、メディアの代わりに親子で読書をする日を作るなど、工夫をしていただけるとよいと思います。